

様式第6号（第10条関係）

令和3年2月5日

広陵町長 殿

申請者 所在地 広陵町笠 162 番地
団体名 特定非営利活動法人
広陵町福祉環境推進ネットワーク
理事長 吉川 英 敏

広陵町協働のまちづくり提案事業補助金完了報告書

令和2年6月26日付け広陵町指令第238号において交付決定を受けた広陵町協働のまちづくり提案事業補助金に係る事業について、広陵町協働のまちづくり提案事業補助金交付要綱第10条の規定に基づき、下記の関係書類を添えて報告します。

記

- 1 団体名 特定非営利活動法人 広陵町福祉環境ネットワーク
- 2 事業名 農業体験ふれあい事業

添付資料

- 1 事業報告書
- 2 事業収支決算書
- 3 事業実施に要した経費に係る領収書の写し
- 4 その他

以上

様式第6号（第10条関係）

令和3年2月5日

広陵町長 殿

申請者 所在地 広陵町笠162番地
団体名 特定非営利活動法人
広陵町福祉環境推進ネットワーク
理事長 吉川英敏

広陵町協働のまちづくり提案事業補助金事業報告書

令和2年度広陵町協働のまちづくり提案事業補助金の交付の決定通知があった事業について、次の通りその実績を報告します。

記

1 交付決定内容

事業名	農業体験ふれあい事業
補助対象経費合計	114,217円（実績額）
交付決定額	100,000円
活動実施期間	令和2年7月1日から 令和3年1月31日まで

※ 事業報告書及び事業収支報告書は、原則公開となります。

※ 補助対象経費の支出は、項目ごとに領収書の写しをA4判にまとめて添付して下さい。

2 事業実施内容

団体名 特定非営利活動法人 広陵町福祉環境推進ネットワーク

令和2年度の事業の目的等に対する達成度及び評価	目的の達成度	4点	(5段階で5点を最高点として5点から1点の自己評価して下さい。)
	評価理由	コロナ禍の影響で収穫にすべての幼稚園、保育園等の園児が参加できなかったこと。	
	改善事項等	各園のニーズ調査により期待に応じられるように努める。	
事業の成果又は効果	<p>事業のスタート時に、各園に対しこれまでに取り組んできた収穫体験事業を踏まえ、各園に対してアンケート調査を実施し、各園の思いを聞くことが出来た。</p> <p>参加園児は、子供の成長具合もあり年長園児が適当と考えられる。また、開催時期は作物の収穫時期に合わせることができるとのことであった。事業は継続的に行っているため園の年間行事に組み込むことが可能とのこと。栽培野菜については、観察と収穫が狙いであるので多品目にわたるとより効果があると思われる。</p> <p>その結果試験的ではあるが作付け野菜を増やすこととした。</p> <p>前年まで： 大根、玉ねぎ、じゃがいも 本年は： 大根、玉ねぎ、じゃがいも、キャベツ、白菜、ブロッコリー、イチゴ</p> <p>品目が増加したことにより、各園が収穫に来る日に、それぞれの野菜の生育に合わせて収穫させることが出来た。特に畑で作っている野菜の品目の説明と一緒に、体験する野菜のパネルを作成し優しく説明した。パネル内容についてはプリントで全員に配布した。</p>		
事業の反省点及び課題	<p>◎作付けについて</p> <p>キャベツ、白菜、ブロッコリーについてはカップで種まきをして苗を育成したが、灌水の程度や手間暇の関係でうまくいかなかった。結果は苗を購入して補充することとなった。また、収穫量においては野菜の生育にばらつきがあり、一斉に収穫させることについて工夫が必要。必要収穫量の2倍ぐらいの栽培が必要と思われる。</p> <p>◎収穫方法について</p>		

	<p>大根や玉ねぎと違い、キャベツや白菜は刃物（鎌、包丁）で根をカットしなければならないので、子供たち自身での収穫することに問題があることが分かった。観察させること意味があるので、外の葉をつけたままで、土を洗わず持ち帰りさせることとした。また収穫野菜はレジ袋に入れての持ち帰りとしたが、環境問題においてはレジ袋を無くす世相となっているので今後の課題となった。</p> <p>◎畑への来所について</p> <p>収穫することについて園に案内をしているが、来所の手段としてマイクロバスとなるので、園が配車の予約に手間取っている様子であり案内時期が難しい。野菜の生育からして丁度収穫に適していると思いで案内するが、2～3週間後となるので、そのタイミングが難しい。</p> <p>また、今年の場合はコロナ禍の関係でバスが予約できず参加できなかった園があったため、野菜だけを届ける結果となった。</p> <p>◎試食会について</p> <p>収穫野菜の試食会を予定していたが、コロナ禍の状況下でもあり実施できなかった。次年度に可能であれば試験的に実施してみたいと思う。</p> <p>◎スタッフの増員について</p> <p>事業を安定化させ、拡大していくためにはスタッフの増員が必要であり啓蒙はしているが結果が出なかった。</p> <p>今後も、高齢者のふれあいとコミュニティの場となるよう勧誘活動に努力したいと考える。</p>
活 動 名	内 容
<p>収穫体験需要調査</p>	<p>町内各保育園、幼稚園、こども園に対し「農業体験についてのアンケート調査」を実施した。</p> <p>調査票配布日： 7月14日</p> <p>調 査 先： 南保育園、馬見労務保育園、常盤保育園、西保育園、真美北保育園、ひだまり保育園、西幼稚</p>

	<p>園、西第2幼稚園、東幼稚園、真美第1幼稚園、真美第2幼稚園、北こども園 合計12園</p> <p>実施方法：各園にアンケート調査票を郵送し、返信封筒で回収する。</p> <p>調査票：別紙資料 1</p> <p>回収数：全園 回収率 100%</p> <p>回答集計結果：別紙資料 2</p> <p><調査結果></p> <p>以前から5月「玉ねぎ」、6月に「ジャガイモ」、12月「ダイコン」と年3回の収穫体験を提供しているので、その回数を尋ねたところ、どの園も収穫時期に合わせる事が出来るとの声が聞こえた。</p> <p>収穫野菜の品目を尋ねたところ、野菜のできる姿や、でき方、収穫の体験を希望されており、できる量が少ないかもしれないが多品目を作付けすることとした。</p> <p>また、観察が大事という声が有ったので、どの野菜も葉っぱも土が付いたままで提供することとした。</p>
種まき	<p>7月27日 キャベツの種まき</p> <p>8月18日 白菜、ブロッコリーの種まき</p> <p>8月28日 秋ジャガイモの植え付け</p> <p>9月22日 大根の種まき</p>
苗植え	<p>8月26日 イチゴ苗の植え付け</p> <p>9月23日 キャベツの苗の植え付け</p> <p>9月23日 白菜の苗の植え付け</p> <p>10月4日 イチゴ苗の植え付け（2回目）</p> <p>11月6日 玉ねぎ苗の植え付け</p>
収穫体験	<p>作付けの結果、「キャベツ」「秋ジャガイモ」「白菜」「大根」をそれぞれの収穫時期と各園の希望を組み合わせ収穫体験をさせることとした。しかし、コロナウィルスの関係</p>

	<p>で一部参加できなかつた園があり、申し訳ない結果となつた。</p> <p>1 1月27日 キャベツ体験 常盤保育園、西保育園</p> <p>1 2月 8日 秋ジャガイモ体験 真美北保育園 東幼稚園</p> <p>1 2月17日 白菜体験 ひだまり保育園</p> <p>1 月13日 大根体験 北かぐやこども園</p> <p>1 月15日 大根体験 西幼稚園</p>
<p>地元野菜の食育体験</p>	<p>1月15日 収穫不参加幼稚園に 大根配布 西第二幼稚園、真美一幼稚園、真美二幼稚園</p>
<p>翌年以降の事業及び今後の具体的方針について (活動内容、財源、他団体との連携等)</p>	<p>次年度についても、保育園、幼稚園、こども園の参加時期のニーズと収穫品目の需要希望を調査しながら参加案内を行う。収穫野菜の品目により一斉に収穫することができないので、収穫時期が来たら園児数と収穫量を勘案しながら順次参加案内することとする。単に収穫するだけにとどまらず、各野菜の出来具合や害虫の姿なども観察させ、できるだけ自然と触れ合う機会を作っていく。また、土や「ミミズ」「虫」などとの戯れの機会も大事にしていきたい。財源については町からの補助金交付に合わせ自己資金を投入しながら健全に取り組んでいくこととする。</p> <p>メンバー自身が野菜作りについては素人のため、近隣の農業者の指導を仰ぎながら進めていきたい。</p>